



伝統

tradition

幻の筑前磁器として
珍重された須恵焼。
悠久の時を超え
蘇った姿を守り続けています。

美術センター久我記念館



スポーツ

sport

須恵町体育協会による、
スポーツ活動が盛んな須恵町。
子どももお年寄りも一緒になって
楽しく体を動かしています。

120年ぶりに復興した“須恵焼”

今なお息づく須恵焼の魅力



若杉山に窯の燃料となるアカマツがあり、器作りに適した環境が整っていた須恵町。宝暦元年（1751）頃、有田焼や伊万里焼を手本に磁器「須恵焼」が生まれました。黒田藩の御用窯として発展し、約150年に渡って作られ“幻の筑前磁器”として珍重されたと言われています。絶えてしまってから120年を経て、陶芸家の倉島岱山さん（写真）が復興。以来30年以上、個展や品評会への出品、小学生に教えるなどして須恵焼を広める活動を行なっています。「窯跡や文献を見ながら試行錯誤を重ねて復興させました。須恵焼の模様・祥瑞や金錆染付の美しさには目を奪われます。町の皆さんに須恵焼を誇りに思ってもらって、次の世代の作り手が現われてくれることを願っています。」と倉島さんは語ります。



伝統に触れる 「美術センター久我記念館」



洋画家・坂本繁二郎を発掘した人物として有名な故・久我五千男氏の個人美術館を、昭和60年に須恵町が受け継ぎました。須恵焼のコレクション約100点が常設展示されており、須恵町にゆかりのある作家の作品も並んでいます。入館無料。



金錆染付山水花生
（個人蔵、須恵町指定文化財）



染付牡丹文蓋付鉢
（個人蔵）

スポーツで豊かなこころを育む

健やかな成長と健康のために



全国大会レベルの練習から健康づくりの軽い運動まで、スポーツ活動が活発な須恵町。はじめは町が主体となり各種大会を行なっていましたが、昭和46年からは「須恵町体育協会」が主催しています。陸上部や剣道部、バレーボール、バドミントンなど19団体があり、約1500人の会員が所属しています。子どもからお年寄りまで生き生きとスポーツを楽しんでおり、町民の重要なコミュニケーションの場になっています。

天然芝のグラウンド 「運動公園若杉の森」



広々とした天然芝の多目的グラウンドは、サッカーや陸上競技などに利用されています。照明設備も備えており、夜間も利用できます。利用を希望する場合は、1週間前までに予約が必要です（有料）。



体育協会主催のスポーツ大会や講習会を開催